《聖トーマス教会合唱団創立800周年記念公演》

聖トーマス教会合唱団＆ゲヴァントハウス管弦楽団

2012年日本公演 スケジュール

Thomanerchor Leipzig & Gewandhausorchester Leipzig Japan Tour 2012 Schedule

2.25［土］15:00 横浜 **横浜みなとみらいホール**
February 25 Sat. 15:00 Yokohama Yokohama Minato Mirai Hall

主催:横浜みなとみらいホール　協力:フェリス女学院大学　後援:横浜市

2.26［日］15:00 大阪 **ザ・シンフォニーホール**
February 26 Sun. 15:00 Osaka The Symphony Hall

主催:朝日放送

2.28［火］18:30 東京 **東京オペラシティ コンサートホール**
February 28 Tue. 18:30 Tokyo Tokyo Opera City Concert Hall

主催:ジャパン・アーツ

2.29［水］18:30 東京 **サントリーホール**
February 29 Wed. 18:30 Tokyo Suntory Hall

主催:ジャパン・アーツ

3.1［木］18:30 東京 **サントリーホール**
March 1 Thu. 18:30 Tokyo Suntory Hall

主催:ジャパン・アーツ

後援:ドイツ連邦共和国大使館／東京ドイツ文化センター

日独交流150周年
Jahre Freundschaft
Deutschland – Japan

Program プログラム

J.S.バッハ：マタイ受難曲 BWV244

J.S.Bach: Matthäus-Passion BWV244

【第1部】
第1曲「導入合唱」
第2曲～第4b曲「イエスを殺す計略」
第4c曲～第6曲「ベタニアで香油を注がれる」
第7曲～第8曲「ユダ、裏切りを企てる」
第9曲～第13曲「過ぎ越しの食事をする。主の晩餐」
第14曲～第25曲「ペトロの離反を予告する。ゲッセマネで祈る」
第26曲～第29曲「裏切られ、逮捕される」

【第2部】
第30曲「導入合唱」
第31曲～第37曲「最高法院で裁判を受ける」
第38曲～第40曲「ペトロ、イエスを知らないと言う」
第41曲～第42曲「ピラトに引き渡される。ユダ、自殺する」
第43曲～第52曲「ピラトから尋問される。死刑の判決を受ける」
第53曲～第57曲「兵士から笑いものにされる」
第58曲～第60曲「十字架につけられる」
第61曲～第65曲「イエスの死」
第66曲～第68曲「墓に葬られる」

合唱：聖トーマス教会合唱団	Thomanerchor Leipzig
管弦楽：ゲヴァントハウス管弦楽団	Gewandhausorchester Leipzig
指揮：ゲオルク･クリストフ･ビラー	Georg Christoph Biller, *Thomaskantor*
ソプラノ：ウーテ･ゼルビッヒ	*Sopran:* Ute Selbig
アルト：シュテファン･カーレ	*Alt:* Stefan Kahle
テノール（福音史家）：マルティン･ペッツォルト	*Tenor* (*Evangelist*): Martin Petzold
~~**テノール：クリストフ･ゲンツ**~~	~~*Tenor:* Christoph Genz~~
バス：マティアス･ヴァイヒェルト	*Bass:* Matthias Weichert
ゴットホルト･シュヴァルツ	Gotthold Schwarz

日本語字幕　**翻訳：樋口隆一**
字幕制作：アルゴン社

※本公演ではテノールのクリストフ・ゲンツは体調不良により、
マルティン・ペッツォルトがテノール・パートを歌いました。

※本公演ではテノールのクリストフ・ゲンツは体調不良により、
マルティン・ペッツォルトがテノール・パートを歌いました。

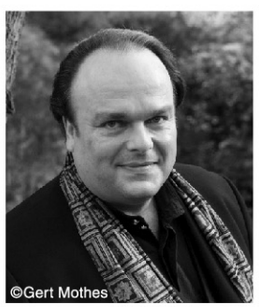
ウーテ・ゼルビッヒ（ソプラノ） Ute Selbig, *Sopran*

ドレスデン出身。同市のカール･マリア･フォン･ウェーバー音楽大学を卒業し、在学中より国内外の数々のコンクールで受賞を果たす。以後オペラとコンサートの双方で活躍。C.デイヴィス、シノーポリ、ハーガー、シュライヤー、ルイジ等の指揮者や、シカゴ響、フランス国立管、スイス･ロマンド管、ドレスデン･シュターツカペレ、ベルリン･フィルなど様々なオーケストラと共演している。またソリストとして契約するドレスデン国立歌劇場では、《フィガロの結婚》のスザンナ、《ラ･ボエーム》のムゼッタ、《ばらの騎士》のゾフィー、《魔笛》のパミーナ、《コジ･ファン･トゥッテ》のフィオルディリージ、そして最も得意とする《修道女アンジェリカ》のアンジェリカと《ドン･ジョヴァンニ》のドンナ･エルヴィーラなど多くの役を歌い、ベルリン･ドイツ･オペラなど他の歌劇場にもたびたび出演している。近年は聖トーマス教会合唱団と緊密な関係を築き、2000年のニューヨーク公演にも参加。バッハの「クリスマス･オラトリオ」でニューヨーク･フィルとの初共演も果たし、2004年の日本･韓国ツアー、2008年の日本ツアーでも成功を収めている。CD収録も多数。1999年宮廷歌手の称号を授与された。

シュテファン・カーレ（アルト） Stefan Kahle, *Alt*

1992年ツヴェンカウ生まれ。5歳より最初の音楽教育となるピアノのレッスンを開始。2003年から2011年まで、ライプツィヒ聖トーマス教会合唱団に所属し、カントールのゲオルク･クリストフ･ビラーの指揮の下で活躍する。在団中にソリストとして頭角を現し、「ラミン賞」（同合唱団のカントールを務めた故ギュンター･ラミンにちなんで創設された賞）を授与された。聖トーマス教会合唱団に在団中は、クリスティーナ･フォーゲルとゴットホルト･シュヴァルツに師事。年少の頃から、すでに合唱団のソリストとして活躍し、中でも、バッハのカンタータの録音で、アルトのソロ･パートを歌ったことは特筆に値する。2010年5月には、J.S.バッハとハイドンのプログラムによる、自身初となるリサイタルを開いた。これに続き、2010年中に、ドイツ、スイス、オーストリアの各地でも公演を行った。また、こうした活動を通して、声楽アンサンブル「アマルコルド」や、バロック･アンサンブル「カペラ･インコグニタ」との緊密な関係が構築された。2011年9月より、古楽を専門とするスイスのバーゼル･スコラ･カントルムに在学し、ゲルト･テュルクの下で研鑽を積んでいる。

マルティン・ペッツォルト（テノール） Martin Petzold, *Tenor*

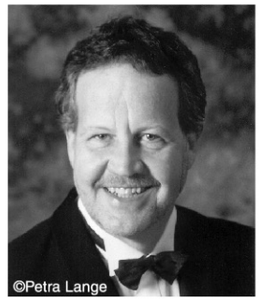


故郷ライプツィヒの聖トーマス教会合唱団のメンバーとして最初の音楽教育を受け、1979年から85年にかけて、当地のフェリックス･メンデルスゾーン音楽･演劇大学で声楽を学んだ。1985年の国家試験終了後、ハレ州立劇場と契約。1986年からはライプツィヒ歌劇場の専属歌手となり、《ニュルンベルクのマイスタージンガー》のダヴィット、《後宮からの逃走》のペドリッロ、《皇帝と大工》のシャトーヌフ、《真夏の夜の夢》のフルート、《鼻》のイヴァンなどを歌っている他、ヨーロッパ各地の歌劇場に客演している。オペラとならんで、聖トーマス教会合唱団、ゲヴァントハウス管、ライプツィヒ放送響、ドレスデン聖十字架合唱団、ハンブルク･モンテヴェルディ合唱団等と緊密な共演を重ねており、ヨーロッパの著名音楽祭や、アメリカ、イスラエル、日本、中国、韓国、中南米にも客演。これまでに、ビラーやシュライヤー、マズア、ハーゼルベック、コープマン、メニューイン、リリングなどの指揮で歌い、世界的な評価を得ている。デッカ〈退廃音楽〉シリーズの多くの録音に参加しているほか、フィリップス、アポロン･クラシックスや日本の複数のレーベル等からCDをリリース。2001年宮廷歌手の称号を授与された。

クリストフ・ゲンツ（テノール） Christoph Genz, *Tenor*

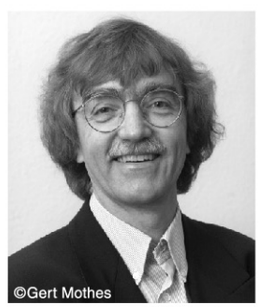
エアフルトに生まれ、ライプツィヒの聖トーマス教会合唱団のメンバーとして最初の音楽教育を受けた。その後、ケンブリッジ大学のキングス･カレッジで音楽理論を学び、この間、キングス･カレッジ合唱団にも所属。さらに、声楽をライプツィヒ音楽演劇大学でハンス=ヨアヒム･ベイヤーに師事。また、エリーザベト･シュヴァルツコップにも師事した。イギリス、グリムズビーの国際声楽コンクール、ライプツィヒのJ.S.バッハ国際コンクールでそれぞれ第1位を獲得。以後、コンサート、リサイタル、オペラのいずれのジャンルでも活躍し、ヨーロッパのみならず、アジア、アメリカなどでも歌っている。これまでに共演を果たした指揮者としては、ブロムシュテット、シノーポリ、シャイー、ラトル、マズア、アーノンクール、ガーディナー、ノリントン、コープマン、メッツマッハー、ヤノフスキ、ハーディング、ブリュッヘン、ヘンゲルブロック、リリング、クイケン、シュライヤーなど、錚々たる顔ぶれが挙げられる。数多くの録音も行っており、ソロアルバムとしては、バッハのカンタータからのアリア、ヘンデルのアリア、シューベルト、ハイドン、モーツァルトの歌曲集などがある。また、鈴木雅明の指揮でも各地でたびたび歌っている。

マティアス・ヴァイヒェルト（バス=バリトン） Prof. Matthias Weichert, *Bass-Bariton*



1955年フランケンベルク（ザクセン州）生まれ。1965～74年まで聖トーマス教会合唱団に在籍し活躍した。ドレスデンのカール･マリア･フォン･ウェーバー音楽大学で声楽と指揮を学び、1981年卒業と同時にオペラ歌手と声楽教師の国家試験に合格。1981～90年の間は、ドレスデン国立歌劇場と同時に、ベルリン国立歌劇場、ライプツィヒ歌劇場、ベルリン･コーミッシェ･オーパーと契約。1981年シューマン賞、1987年ヴォルフ賞を受賞し、1988年にはバイロイト音楽祭の奨学生となる。1990年ブリュッセル国立歌劇場と契約。1996年と2000年には聖トーマス教会合唱団の日本ツアーに参加（以降もたびたび参加）し、オーストリア、ベルギー、デンマーク、フランスでも共演した。彼は、コンサート歌手、オペラ歌手として、活発な演奏活動を展開しており、ベルリン･フィル、ドレスデン国立歌劇場などへの客演や、ラジオ･テレビ収録とCD録音も数多く行っている。2000年以降はフリーランスの歌手として活躍。2002年には、ドレスデンの教会音楽大学およびカール･マリア･フォン･ウェーバー音楽大学の声楽科教授に任命された。このほか、ヨーロッパの大半の主要音楽都市、イスラエル、韓国などへもツアーを行っている。

ゴットホルト・シュヴァルツ（バス=バリトン） Gotthold Schwarz, *Bass-Bariton*



ツヴィッカウ（ザクセン州）出身。ドレスデンの教会音楽大学とライプツィヒの音楽演劇大学で声楽と指揮を学び、マスタークラスやアカデミーで、ペーター･シュライヤー、ヘルムート･リリングの指導を受ける。在学中よりドレスデンやライプツィヒでコンサートを開催。活発なコンサート活動はヨーロッパ各地やアメリカ合衆国に広がり、アメリカでは、コンサートのほか、バッハの作品解釈のコースも受け持った。ヨーロッパで定期的に共演している著名アーティストやアンサンブルには、ベルニウス、シュライヤー、シュナイダー、ハーゼルベック、P.ノイマン、ヘルヴェッヘ、ガーディナー、レオンハルト、聖トーマス教会合唱団、ゲヴァントハウス管、ドレスデン聖十字架合唱団、イル･ジャルディーノ･アルモニコなどがあり、近年は、ザルツブルク音楽祭、ウィーン楽友協会や、ヨーロッパの多数の音楽都市、イスラエル、日本、アメリカ合衆国で出演。リサイタル活動にも力を注いでおり、バロックから現代に至るまでレパートリーも幅広い。数多くのCDで、著名な指揮者･団体と共演し、ラジオ放送での演奏も行っている。また指揮者としても活躍しており、聖トーマス教会合唱団や自身の合奏団を長年頻繁に指揮している。